

檀信徒各位

春季彼岸法要のご案内

聖名 長期予報では暖冬といわれながら、今年の冬は厳しい寒さとなりました。ようやく春らしい陽気となってまいりました。

さて、例年3月の「春季彼岸法要」を迎えることになりました。

ご多忙の折柄、恐縮乍ら、何卒万障お繰り合わせご参詣下さいますよう、ご案内申し上げます。 合 掌

平成27年3月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

記

※期 日 3月21日(土) 春分の日

※時 間 午後1時より音楽法要、ご回向

午後2時より法話と歌唱指導(音楽法要の曲等)

※布教師 住職 堤 俊翁



※ご回向料

普通回向 1霊 1,000円以上

※お供え料 随意ご志納下さい。

毎日の本尊阿弥陀様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

※お袈裟をお持ちの方は着用の上、法要にご参加下さい。

浄土と天国

亡くなった方が赴くところを「天国」と表現することがあります。キリスト教に由来するこの言葉は一般的に、「苦しみのない世界」の代名詞になっているようです。

佛教ではそれを、仏様が作られた国、「浄土」と説きます。

私たち浄土宗は、お念仏をとこなえることで阿弥陀さまの極楽浄土へ往生させていただくことを宗旨としています。

「天国」と性格を異にするのは、安らかな世界に行くことだけが目的ではない、という点。

極楽浄土に往生したなら、清らかな世界で阿弥陀さまから教えを頂き、仏様となつてご縁のある方々を教え導くことまでを旨としています。

極楽往生を願う意義とは、自分の苦しみから離れるとともに、周りの人に幸せを与える存在を目指す、という点にあるのです。



お彼岸を迎えるにあたって

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、お彼岸は春夏秋冬の四季にめぐまれた日本独特の仏教行事です。

私たちはこの仏教行事をおして季節の移ろいをも感じとっています。お彼岸につきものの春の『ぼたもち（牡丹餅）』、秋の『おはぎ（御萩）』などもその表れといえるでしょう。

しかし、この「彼岸」は季節を表す言葉ではありません。私たちが日ごろ、「あの世、この世」という言葉を使います。「この世」はもちろん私たちの生きている現実世界であり、「彼岸（しがん）」です。

此岸は煩惱渦巻く「四苦八苦」の世界です。限りある苦悩の世界をいとい離れて求められるのが、「あの世」すなわち「彼岸」なのです。

彼岸は限らない命と智慧に満ちあふれた世界です。阿弥陀さまの浄土、西方極楽浄土こそが、私たちの願い求めゆべき彼岸なのです。

彼岸という仏教行事では、今を生きる自分の命が先祖から永々と伝えられて来た「命のバトン」を受けて生きていくという事実を再確認し、彼岸にいらっしやるご先祖をしのびます。そして、この自分も命終える時には彼岸での「俱会一処（くえいつしょ）」を願い求め、「四苦八苦」の世界に埋没することなく精進してまいりますという心を堅固にすることが大切なのです。

※俱会一処とは

ともに極楽浄土で出会うこと。

法然上人絵伝

第八卷第一段

法然上人、暗夜に眼や身中から光を発する

法然上人は建久九（一一九八）

年の正月ごろから念佛三昧に入り、極樂の有様を見たり、三尊の来迎にあずかった。また修行の結果であらうか、暗夜に眼から光を出して聖教を読んだり、部屋の内부를自由に見ることができたという。

その様子はいつもそば近く仕えていた信空上人や隆寛上人や湛空上人らが気づいていた。

下の絵には二つの異なる場面が描かれている。

右の場面は、あるとき湛空上人がそのことを確かめようとしているところである。

あたりは真っ暗なのに法然上人は本を読んでいるらしい。

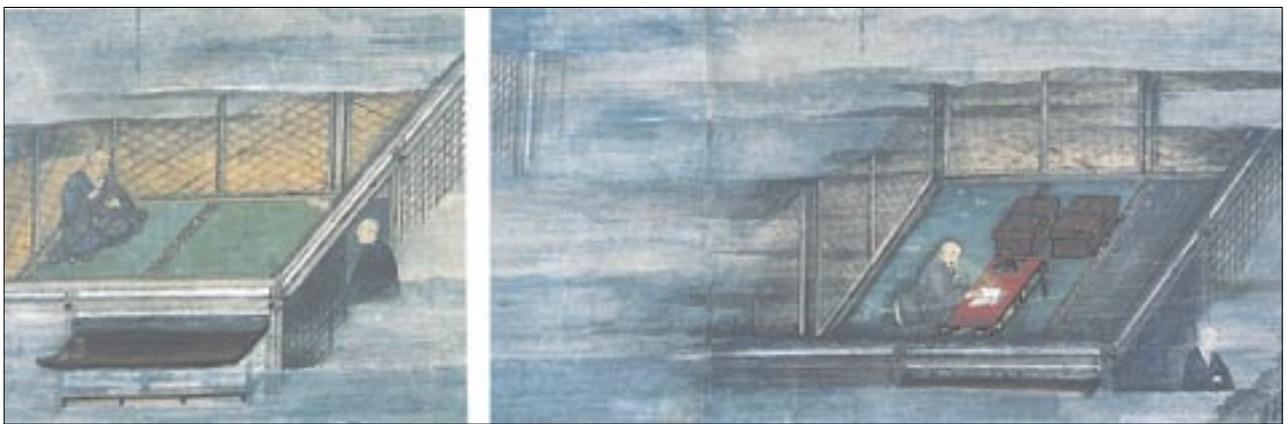
灯りをつけた様子もないのにと思つてそつとのぞいて見ると、左右の眼の隅から光が出て本を照らしていた。驚いた湛空上人は、こうしたことは内証にしておこうと思ひ、足音をしのばせて退却した。

左の場面では、夜が更けて、い

かにも周囲は静寂そのもの。法然上人はただ一人部屋で念佛をしている。お年なのに元気な声。毎晩よく続くものだと感じた湛空上人は、「何かご用があるかもしれない。うかがつてみよう」と遣り戸を開けた。

すると法然上人のお体から出る光で畳二畳ほどがあかあかと照らされ、部屋全体も明るい。

湛空上人はびっくりして、入ろうかやめようかぐずぐずしている。法然上人は「お前はだれだ」と声をかけられた。「湛空です」と答えると、「お前たちも一所懸命念仏しなさい」と申されたという。



佛教の教え

釈尊の苦行

釈尊は妻子を捨て、家を出て出家僧の道を求めようとした。そのために六年あるいは七年の苦行をしたといわれている。

難行苦行の方法として、ある仏典では米一粒、麻の実一粒しか取らなかつたという記述になっているが、それは修行者の生存にとつて最小限度の食事しか取らずに修行に専念したことを示唆している。やせ細つて肋骨があらわとなり、目はくぼみ、骨と皮ばかりになった有名な「苦行の釈迦像」があるように、身体を責めぬく行に打ち込んでやせた釈迦は、沐浴のためにナイランジャナー河に入ろうとしても身体が軽くて浮いてしまひ、なかなか入ることができなかつたのである。

また、岸に上がろうとしても簡単に上がることができなかつたという。

続く

大本山善導寺 五重相伝会（檀信徒対象）

入行者募集のご案内

期 日	平成 27 年 5 月 13 日（水）～ 17 日（日）5 日間
場 所	大本山善導寺（久留米市善導寺町飯田 550）
入行対象	浄土宗檀信徒
募集人数	100 名（全員「椅子席」でのご聴聞です。）
入行料	70.000 円（浄衣、袈裟、読本、昼食代等含む）

社会は今、大きく変わろうとしており、いろいろな場面で多くの人々が生きる道を求めて苦悩しているように見受けられます。

心よりどこをどこに求めたらよいのか、安住の地はどこなのか？

争いが絶えない、苦しみが絶えない世界ですが、神佛への祈りこそが地球を救う道ではないでしょうか？

「お念佛をただ称えよ」とお示しくだされた法然上人のみ教えを学んでいただける機会を、大本山善導寺様が設けて下さることになりました。お念佛の功德を共に積んでいただく大変有意義なものです。

5日間という限られた日数ですが、必ずや実りある経験となることでしょう。

人は信仰に目覚めてこそ本当の人生を送ることができるのです。

どうぞこの機会に参加されますようご案内申し上げます。

合 掌

《 お申し込み・お問い合わせ 》

〒 839-0824 久留米市善導寺町飯田 550

大本山善導寺 五重相伝会 係

電話 0942-47-1006 ファックス 0942-47-3772

郵便振替口座 福岡 01780-7-669 大本山善導寺

福岡教区檀信徒研修会

期 日	平成 27 年 6 月 8 日（月）
時 間	12 時受付開始 17 時終了予定
場 所	アクロス福岡シンフォニーホール（福岡市中央区天神 1 丁目 1 番 1 号）
会 費	入場 無料 参加申込は無量寺まで
内 容	● 知恩院門跡 伊藤 唯真猊下 御親修 ● 語り、映像、音で伝える法然上人一代記（大本山善導寺布教師会）



落とし物があります。

ダイヤの指環（T to K）の刻み文字があります。

墓地入口の水くみ場にありました。

お心当たりの方は寺務所までお問い合わせ下さい。